

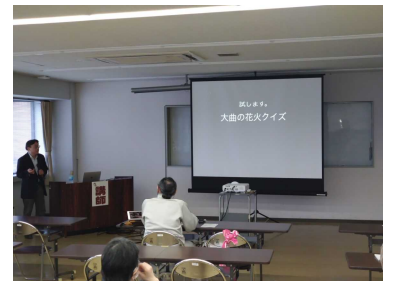
## 令和7年度 あきたスマートカレッジ 講座内容報告

### A 地域の取組学び講座 ～挑戦と新たな価値の創出～

地域課題の解決に向けて挑戦する方々の取組を学び、自らも地域づくりをはじめのきっかけになる講座です。

講座記号	日時	テーマ	講師
A1	5月17日 (土) 10:00～11:30	花火のまち大曲 「大曲の花火が世界一といわれる理由」	カネトク卸総合センター株式会社 代表取締役 小西 亨一郎 氏
A2	7月5日 (土) 10:00～11:30	農村から元気を届ける ～南白神の里で地域住民と一緒に明るく 元気になるための活動に取り組む～	NPO法人ふじさと元気塾 理事長 藤原 弘章 氏
A3	10月4日 (土) 10:00～11:30	グラデーション社会の実現 ～100年時代の人生の楽しみ方～	株式会社なんで・なんで 代表取締役 須田 紘彬 氏
A4	11月15日 (土) 10:00～11:30	学びあい続ける地域	一般社団法人ドチャベンジャーズ 理事 石岡 香澄 氏

**A1** 全国的に知られている大曲の花火がもたらす地域の活性化やこれからの展望について小西氏から話がありました。冒頭の「大曲の花火クイズ」では、あまり知られていない大曲の花火に関する知識を出題されました。その後、花火大会の歴史や大曲の花火がここまで大きな花火大会となった理由について詳しく話されました。また、花火を楽しく鑑賞するための玉名や競技種目についても映像を交えながら解説されました。花火大会に来てくれた方々に楽しんでもらおうとするため、地域の方々の熱意や姿勢を学ぶ講座となりました。



**A2** 藤原氏は神奈川県で中学校教諭として勤務され、平成20年に藤里町へ帰郷し、「故郷を活気づけたい」という想いで「ふじさと元気塾」を立ち上げました。農泊事業では農家民宿に国内外からたくさんの方が来訪されています。このほかにも地域の資源を活用したサクラマス養殖業務委託事業や藤沢、鎌倉両市民との交流事業など多岐にわたる事業を通して、地域課題の解決に取り組まれています。「できる人ができることを行う」「無理をせず楽しんで行う」「つながりを大事にして循環を創る」といった自身が地域課題の解決で大切に考えていることを強調されていました。



**A3** 須田氏から、これから迎えるVUCA時代や人生100年時代に向けて、これから積み上げていくであろうことを設計するキャリアデザインについて述べられました。そして、自分のキャリアと主体的に向き合うキャリアオーナーシップの重要性や短所やネガティブな捉え方を視点を変えて長所やポジティブなものとして捉えるリフレーミングについて学びました。これまでの20歳～60歳が仕事のステージであった人生のモデルは、年齢とステージが関係しない人生に多様化しつつあることも語られ、どの年代でも手遅れではないことを学ぶことができました。



**A4** 石岡氏から人口減少が進む五城目町に廃校となった小学校を活用したレンタルオフィスBABAME BASEに多様な挑戦者が集い地域から内発的に新しい事業が生まれる環境づくりについて紹介されました。さらに、入居する起業家を「土着ベンチャー」、略して「ドチャベン」と町が命名し、地域住民とともに行ったまちづくりを詳しく話されました。(社)ドチャベンジャーズを創業し、空き家・空き店舗を新事業に活用する取組や、小学校を生涯学習の場にする「みんなの学校」の取組など、みんなが挑戦するまちづくりの取組を学ぶことができた講座となりました。



## 令和7年度 あきたスマートカレッジ 講座内容報告

### B 熟議ファシリテーター講座 ～「熟議」をつくろう！～

持続可能な地域づくりや課題解決に向け、熟慮×議論により、連携と協働を形成・促進する手法のひとつである「熟議」を学びます。全4回の受講を通して、当センターの手法による自分なりの「熟議」を完成させていきます。企画進行役のファシリテーション技術と実際の「熟議」の企画について学ぶ実践的研修講座です。

※1 第2～4回を受講する場合、プレゼンテーションソフトがインストールされているノートパソコンやタブレットパソコンが必要です。

※2 B1終了後、B2～B4の受講を希望される方は、その場でお申し込みをいただきます。

講座記号	日時	テーマ	講師
B1	6月28日 (土) 13:30～15:30	「熟議」を体験しよう	秋田県生涯学習センター職員
B2	7月19日 (土) 13:30～15:30	「熟議」づくりパッケージ① ～地域分析、「熟議」テーマ設定、 ラウンド展開設定、提示資料選定～	
B3	8月2日 (土) 13:30～15:30	「熟議」づくりパッケージ② ～「熟議」のまとめ方、スライドデザイン、オリジナル「熟議」パッケージの作成～	
B4	9月6日 (土) 13:30～15:30	オリジナルプレゼンテーション	

**B1** 受講者は、生涯学習センターが実践を通して形づくってきた「熟議」を体験しました。何かを決定する会議のような堅苦しさがなく、テーマについて自由闊達な意見交換をする中で、他者の様々な考え方に触れ、自分の考えを深め、共感し、テーマについての自分事意識が醸成されていく過程を体験しました。ファシリテーターが果たすべき役割、場の雰囲気づくり方、組立て方等を学びました。

**B2** 前半は講師が、B1講座で体験した「熟議」のスライドについて解説し、参加しやすい雰囲気づくりとしてのアイスブレイク、話し合いの方向性を理解するための資料提示の工夫等について学びました。また、講師による「参加型学習」の講話を聞き、「熟議」を行う意義について考えました。後半は、自分なりの視点でオリジナル「熟議」を構想し、どのように展開するかを考え、テーマ設定等について参加者同士で意見交換したり、スタッフと話し合ったりしました。

**B3** 「熟議」のまとめ方を、実際の「熟議」で使用された付箋の仕分けと、グループごとの発表を通して学びました。講師は、結論を導いたり議決したりしないのが「熟議」であり、参加者が意識と思考の方向性を共有することが大切であると述べました。後半は、オリジナル「熟議」の完成に向けて、ワークシートに考えをまとめながら、参加者目線に立った資料の提示を考えたり、パソコンでスライドを作成したりしました。

**B4** 最初に、各受講者が作成したオリジナル「熟議」の発表に向けて、仕上げの作業と発表準備を行いました。その後、各自が作成したスライドを使ってオリジナル「熟議」について発表し、学習成果を披露しました。それぞれの立場(所属団体・自治会等)で話し合いたいテーマを設定して作成されたスライドには随所に工夫が見られ、すぐに活用できるほど仕上がっていました。最後に、講師から「ファシリテーションは経験が大事であり、今回の経験を生かして何度でも挑戦してほしい」と激励があり、全4回の講座を終了しました。



**C 障害者の生涯学習講座 ～みんなで学びを楽しもう～**

年齢や障害の有無にかかわらず、どなたでも体験や講義を通して学び、生活の質を高めるきっかけになる講座です。

講座記号	日時	テーマ	講師
C1	9月6日 (土) 10:00～11:30	夏の疲れを癒やすヨガ① ～季節に合わせたヨガで、 心身ともにリフレッシュ!～	介護福祉士が伝える健康ヨガ ヨガインストラクター 佐藤 歩氏
C2	9月20日 (土) 10:00～11:30	心と体を癒やす音楽の力 ～音楽療法を体験しよう～	音楽療法教室リヴァ 音楽療法士 平川 真実氏
C3	10月18日 (土) 10:00～11:30	「おとな」の「図工」を楽しもう ～今こそ、図画工作科の工作を 楽しみましょう～	秋田大学 名誉教授 長瀬 達也氏
C4	11月1日 (土) 10:00～11:30	モルックの魅力を味わおう ～基本的なルールを知り、様々な人と モルックを通して交流しよう～	NPO法人 こまちハート・オブ・ゴールド クラブマネージャー 菅 善徳氏
C5	12月6日 (土) 10:00～11:30	冬の寒さに負けないヨガ② ～季節に合わせたヨガで、 心身ともにリフレッシュ!～	介護福祉士が伝える健康ヨガ ヨガインストラクター 佐藤 歩氏

**C1** 夏の暑さで疲れが溜まっている、心や身体を癒やすヨガについての体験を行いました。身体の状態は日々違うため、自分の状態に合わせて無理せずに行うことが大切であると説明されました。実技では椅子やヨガマットを使用し座位、仰向け、うつ伏せなど、参加者に合わせながら様々な動きを取り入れたヨガが行われました。最後には、講師の先生が参加者の状態に合わせて、一人一人にマッサージを行い、リラックスした状態で体験を終えることができました。

**C2** 音楽療法の音楽が持つ生理的、心理的、社会的働きを、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上に向けて、意図的、計画的に活用して行われるものと説明されました。その後、音楽療法の体験では、始まりの歌、季節の歌、体操、脳トレ、終わりの歌の流れで体験を行い、参加者は歌を歌うことを通して感情の表出を行い、音楽のもつ心地よさを感じたり、ストレスを発散することができたりした様子でした。

**C3** まず、「具体的表現やリアルでなくてもいい、何を表現したいのかわからなくてもいい、思いつくまま作り、工作の魅力を十分に味わってほしい」と述べられました。その後、参加者は、ティッシュの箱にカラーセロファン、アルミホイルなど貼り付け「のぞいてびっくりボックス」作りを行いました。参加者は制作に没頭し、時間いっぱい工作の楽しさに触れた様子でした。

**C4** モルック体験を行う前にアイスブレイクを行いました。参加者同士が手をつなぎ、指示と反対の動きをする内容のため、自然と笑顔となり参加者同士が打ち解け合うことができました。また、思考しながらの活動となったため、モルックを行う前の脳のトレーニングにもなりました。モルック体験では、ゲームについての基本的な内容から、バックspinやスキトルが複数本たった状態で1本のみを倒す高度な投げ方の紹介もあり、初めて体験した方やモルックを知っている方など様々なレベルに応じた講座となり、全員がモルックの魅力を感じるようになりました。

**C5** 冬期間は身体を動かさないことが多くなるため、血行促進や自律神経の安定などを想定した動きを行いました。呼吸を整え、血液の流れを感じ、身体の動き一つ一つを丁寧にを行うことで、参加者は自分の身体に意識を集中しながら体験することができました。また、ヨガブロックを使い集中的に股関節を動かしました。安全に股関節を動かすことができるように、身体の状態に応じたアドバイスがあり、無理をせずヨガ体験を行うことができました。



## 令和7年度 あきたスマートカレッジ 講座内容報告

### D 防災講座 ～命を守るために～

秋田県内の災害の状況や課題を学び、個々の自助力を高め、地域コミュニティ全体の共助力向上に結びつけるきっかけになる講座です。

講座記号	日時	テーマ	講師
D1	6月7日 (土) 13:30～15:00	新しい防災の考え方と 情報収集の大切さ	日本赤十字東北看護大学 介護福祉短期大学部 講師 及川真一氏
D2	7月12日 (土) 13:30～15:00	防災意識の向上と マイ・タイムライン	国土交通省東北地方整備局 秋田河川国道事務所 金子俊秋氏
D3	9月20日 (土) 13:30～15:00	日常から考える災害情報の活用	秋田県生涯学習センター職員
D4	10月4日 (土) 13:30～15:00	気象と防災の知識を暮らしの中へ ～災害から身を守るために～	日本気象予報士会 気象予報士・防災士 鳥潟幸男氏
D5	11月1日 (土) 13:30～15:00	新しい防災の考え方と 避難支援について	日本赤十字東北看護大学 介護福祉短期大学部 講師 及川真一氏

**D1** 「いつも防災」をキーワードに、「『とにかく自分のため、誰かのため、何かのため、災害に備える行動』それらはすべて<防災>と考えてみてはどうでしょうか。」という講師の提案に、参加者は自分たちにできる防災について真剣に考えている様子でした。また、「重ねるハザードマップ」や「キキクル」を中心に、自ら災害情報を得ることの重要性についても、実際のサイトを見せていただきながら学ぶことができた講座でした。

**D2** 洪水災害の発生状況を動画で確認したり、気象情報や災害情報を獲得できるサイトとして「キキクル」を紹介していただいたりすることで、参加者は防災意識を高めることができました。また、避難行動をとる際の判断基準となる「マイ・タイムライン」を実際に作成することで、具体的な避難行動を想定することができました。

**D3** 防災意識に関するクイズに始まり、災害はいつ起きてもおかしくないことはわかっているでも「正常性バイアス」が働くことを確認しました。その後、受講者自身のスマートフォンやタブレットを用いて、「秋田県防災ポータルサイト」や「Yahoo!防災」、「キキクル」、「LINEスマート通知」などの使い方、設定の仕方を学びました。

**D4** 秋田県の気候変動について、「気温の上昇」や「雪の減少」、「海面水温の上昇」、「大雨の増加」など、実際のデータをもとに詳しく学びました。また、講師から、「自ら能動的に情報を取りに行くことの重要性」が説かれ、気象庁の情報を正しく得るためのスマホの使い方なども併せて学ぶことができた講座でした。

**D5** 実際に役立つ防災グッズを紹介していただきました。中でも撥水スプレーは色んな素材に対して使うことができ、大雨災害の時に非常役に立つことを受講者の皆さんが実感できたようでした。また、自力歩行で避難することが困難な方の搬送方法として、車椅子の使い方を実際に体験できたことは、受講者にとって大変貴重な学びになったようです。



令和7年度 あきたスマートカレッジ 講座内容報告

**E 東大史料編纂所協力講座 景色の日本史～絵図・古写真から探る～**

東京大学史料編纂所の研究者から、様々な史料に基づく研究成果を直接学ぶことができる講座です。最先端の歴史学の成果に触れられる機会です。すべて【講師リモート講座】で開催しました。

講座記号	日時	テーマ	講師
E1	8月30日 (土) 10:00～11:30	「中世鎌倉の寺社の風景」	東京大学史料編纂所 教授 高橋 慎一郎 氏
E2	9月13日 (土) 10:00～11:30	「鎌倉幕府の訴訟制度と荘園絵図」	東京大学史料編纂所 准教授 井上 聡 氏
E3	9月27日 (土) 10:00～11:30	「幕末・明治の風景写真からわかること」	東京大学史料編纂所 技術専門員 谷 昭佳 氏
E4	10月11日 (土) 10:00～11:30	「洛中洛外図屏風の骨格」	東京大学史料編纂所 教授 藤原 重雄 氏
E5	10月25日 (土) 10:00～11:30	「築城の風景－天下普請と大名たち－」	東京大学史料編纂所 教授 及川 亘 氏

**E1** はじめに、画像史料には絵図のほかに、絵巻物、肖像画、本の挿絵、写真、映像などがあり、過去の人々の習慣や日常生活の実態、自然環境などを知る重要な手掛かりになるものであることが紹介されました。鎌倉時代に浄光明寺周辺の鎌倉中心部を描いた唯一の絵図をもとに、三方を山に囲まれ一方が海に開く地形と照らし合わせながら、寺社の配置に関わる具体的な理由が解説されました。



**E2** 冒頭、荘園の性格や荘園の支配権など鎌倉時代の「荘園制」について紹介されました。荘園現地の管理者身分である武士が、「地頭」に任命されて身分保障が与えられ強い力を握ると、荘園の支配をめぐる地頭らと荘園領主の裁判が多発するようになる事が述べられました。訴人または論人の主張を裏付けや現地を確認するために使節は、関係者の証言と照らし合わせるために絵図を用いたという興味深い内容でした。



**E3** ガラス原板ネガを中心とする調査研究では、高精細デジタル画像を解析することにより撮影地が判明したり、本所回向院や高輪泉岳寺、京都の清水坂横の壁などに「相合傘」の落書きが見つかったりするなど、文字情報だけでは知り得ない、幕末・明治初期の文化・風俗情報の具体的な画像が提示されました。受講者からは「史料の検討・検証は多角的にというメッセージがよく伝わってきた。」等の感想が寄せられました。



**E4** 「洛中洛外図屏風」は屏風に都市京都の内外を絵地図的に描いた作品であり、室町時代後期・戦国時代の作品が若干、江戸時代の作品の多数からなり、約200点ほど存在することを学びました。受講者からは、「洛中洛外図については、狩野派と信長と室町将軍とのかわり(上杉本)の観点から見るが多かったが、歴博甲本による都市構成からの観点が新鮮で興味深かった。」と感想が述べられました。



**E5** 伏見城・江戸城・駿府城・名古屋城・大坂城など、豊臣政権や江戸幕府が諸大名を動員して実施した築城などの土木工事について、歴史的意義や公儀普請の流れをデジタルアーカイブの詳細な画像を用いながら解説されました。受講者からは「屏風の絵画からいろいろな事が読み取れることがわかった。仲の悪い大名同士が普請でとわり合わないようになっているのが面白かった。」と大好評でした。



令和7年度 あきたスマートカレッジ 講座内容報告

F 文学講座 ～戦後80年 戦争文学を通して平和を考える～

戦争の世紀を生きた文学者の足跡・戦争文学についての学びを通して、平和の尊さを次世代につないでいく講座です。

講座記号	日時	テーマ	講師
F1	5月24日 (土) 10:00～11:30	千葉治平 「虜愁記」	秋田県生涯学習センター シニアコーディネーター 北条 常久
F2	6月21日 (土) 10:00～11:30	遺稿「帰還」(未完)を読む ～高井有一が描いたことと 描こうとしたこと～	秋田県立大学 副学長 高橋 秀晴氏
F3	7月19日 (土) 10:00～11:30	加藤富夫 「さらば、海軍」	秋田県生涯学習センター シニアコーディネーター 北条 常久

**F1** 秋田県出身の直木賞作家、千葉治平とその代表作『虜愁記』に焦点を当て、第二次世界大戦終結後に中国で捕虜となった人々の経験や、現地に留まった人々の生き様を通じて戦争と平和を問い直す講座でした。技術者として働きながら執筆を続けた著者の略歴に触れながら、物語の舞台を想起させる中国大陸の地図や、ジャンク船の画像の解説と共に作品の世界観と過酷な時代を生き抜いた人間の「愁い」について考える時間でした。受講者からは、「いつの時代も人は食べて生きていく。生きていくためには食べなければならない。平時にさえさまざまな問題があるのに、戦中戦後は更に生きていくのが大変になる。私たちはこのような講演を聴いてものごとについて考えさせられる。」との感想が寄せられました。



**F2** 芥川賞作家である高井有一の文学的足跡と、彼の未完の遺稿である『帰還』に焦点を当てた講座でした。講師からは、高井氏が幼少期に疎開した秋田県角館での体験や、自死した母親の遺体と対面した衝撃的な記憶が、彼の創作活動の原点となっていることが解説され、特に代表作『北の河』から晩年の作品に至るまで、戦争が個人に落とした影やその後遺症を一貫して描き続けてきた彼の姿勢が浮き彫りにされていることが紹介されました。受講者からは、「凄惨な戦争の記憶を紐解きながら、現代における戦争文学の重要性を再確認することは、今の時代に合ったとても興味深い内容でした。」との感想が寄せられました。



**F3** 終戦から80年という歴史的節目を控え、私たちは過去の記憶をいかに次世代へと繋いでいくべきか郷土作家、加藤富夫の足跡に触れながら考える講座でした。加藤氏は、「現役の高校教師」という顔を持ちながら、芥川賞候補に4回、直木賞候補に4回、計8回もその名を連ねました。目的を喪失しがちな現代社会を生きる私たちにとっても、自己の存在意義を問うきっかけとなる時間でした。受講者からは、「知らない作家・作品がなんと多くあることか。地元これほどの実力者がいたことを誇りに思う」「東京での新人賞パーティーの話や、芥川賞候補になった際の編集者とのやりとりを楽しそうに話してくれた加藤先生の姿が昨日のこのように思い出されます。」との感想が寄せられました。

